



ハタラクヒト *ペディア7

<神谷昌宏氏>

田中永子

はじめに

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第7回 ご登場いただくのは、
株式会社魚勉の専務取締役で、
刈谷市議会議員もしている 神谷昌宏さん です。

神谷さんは、刈谷市青年会議所にて第37代理事長を歴任され、
現在は魚介類を中心とした業務用食品の卸売会社（株）魚勉を経営している傍ら、
刈谷市議会の副議長さんでもあります。

市議会議員としては現在4期目ですから、最も働き盛りの議員としての「即戦力」ですね。

今日は主にJCのことと、市議会議員としての心構えなどについてお話を伺ってみました。

神谷氏



趣味 : 旅行

連絡先 : 会社0566-23-0343

メール : masahiro@kamiya.gr.jp

延べ27万件を超えるアクセスのあるホームページ <http://www.kamiya.gr.jp/index.php>

◆ JCは自分にとって、JC大学社会学部という存在

田中永子（以下田中）： 略 ぼちぼち、よろしいですか？（笑）。。

神谷まさひろさん（以下敬称略 神谷）： ああ、いいよ（笑）。びっくりした、こんな話で終始していいのかなって（笑）。 生い立ち話とかで。

田中： どんなふうに来てきたのかな というお話も伺いたいなって思ってます。

神谷： そんなの、値打ちのない話ですよ。

田中： いえいえ、全然。 みなさんそうおっしゃるんですけど、記事に起こしてみるとおもしろいんですよ。

神谷： へー。

田中： まあ、いろんな仕事があるってことです。

神谷： 田中さん、昔はこういう仕事じゃなかったですよ？

田中： そうですね。「ソース」というワークショップ受けてから、こっちの方向に（笑）。 コーチング、NLPときて。 ストレス軽減、コミュニケーション、願望実現、状態管理なんか有効で。

神谷： イメージとしては自己啓発系セミナーかな。 JCの頃によく参加していました。

田中： 神谷さん、JCの活動もしてらして。 JCの活動ってどんな感じですか？ とてもお忙しいというお話は何うんですけど。

神谷： うーん。 今はどうかだか判らないけれど、商工会議所青年部の活動をもう少し堅くした感じかなあ。

田中： 堅く？

神谷： うん。「堅く」という表現が相応しいかどうか判らないけれど、青年部は、どちらかというと、「場をビジネスに繋げること、大歓迎」みたいな感じがあるけど、JCの場合、そこら辺はあんまりないんです。

田中： はい。

神谷： 逆に 「JCを通じてビジネスに繋げる」 っていうのは嫌がられる。 むしろ、僕が入会する時は 「そういうことは、しちゃいけないんだ」 って聞かされていたような記憶があるんです。

田中： へえ。

神谷： JCは40歳で卒業だから、今53歳で13年経った今でも 「JCの入会オリエンテーションの講師で来てくれ」 って言われるので。 「13年も経ったら、テンションも雰囲気も違うから、勘弁してくれ」 って断るんですけど……。

田中： 笑

神谷： ちょうど、今委員長だったり、室長だったり、理事長だったりする人が 「自分が入会した時に、神谷さんがオリエンテーションの講師として話された話を聞いて、ぼくはやる気になって、入会しましたから、是非」 っておだてたりするんで、ついつい調子に乗って引き受けるんですけど。

田中： 笑

神谷： その時に言うのが、「みなさん、いろんな目的があって、ここオリエンテーションに来てると思うけれども、少なくとも営業活動の一環として、ビジネスに繋げてやろうと思って来るんだったら、やめてくれ」 という言葉なんです。

田中： うん。

神谷： ずばり、そう言っているんです。 JCはそういうところあるなと思ってね。 逆に商工会議所・青年部は、むしろ「ビジネスに繋げることが目的だ」 みたいなところがあると思う。 僕が商工会議所・青年部に入会する時には、「みんな、それぞれが経営者なのだから、この会への入会は自分のためであり、会社のためである。 そういう場にしよう」 って教えられたような気がするんですよ。

田中： ええ。

神谷： 僕は青年部では役員とか、理事とかやってないので判らないんですけど、親友の神野君

って人は、JCでも理事長やったし、青年部でも会長やってる人で。彼は両方キチッと見てきていて、その彼に言わせると、「JCはひとつの事業をやるのに、理事会で手段と目的、運営方法とかをきちんと議論して、その結果、成果はどうだったか、みたいな話をするんだけど、青年部はその点はわりとおおらかだよ」と教えてくれていたんです。

田中： 笑

神谷： さきほど言った「堅い」というのはそういう意味なんですよ。「そういう違いがあるかな」と思って見てるんですけどね。もちろん、どちらが良いということではなくて、それぞれの特徴があって、どちらも良いということだと思います。

田中： どうでした？ その違いというものを見られて。

神谷： 僕は先ほど言ったオリエンテーションでも話すんですけど、JC入る目的としてね、例えば、「自分自身の器を大きくしたい」だとか、あるいは「友達を作りたい」といった目的の人もいると思うんです。

でもね、確かに飲み仲間は簡単にできるんですけど、一生付き合っていけるような、本当に心許せるような友達ってどういうふうに来るかっていうと、やはり何か難しい事業と一緒に取り組んで、それをやってきて、初めて「あ〜、こいつなら腹割って話せるな」とか、「きちんとやってくれる人だな」とってことがわかりあえるからだと思うんですよね。だから、その友達を得るってことは、実は「JCで事業を一生懸命やった時に得られる副産物なんだろう」と思っているんです。

田中： うーん。

神谷： つまり、「JCっていうのは街づくりの団体なんです」と、僕はオリエンテーションでいつも言ってきたし、僕らもそう習ってきたんです。「修練」「奉仕」「友情」というのが3信条、この中で順位をつけるとすれば、JCとは「奉仕」の団体なのってね。

で、目的として「友情」に求めたり、「修練」に求めたりというメンバーもいるんですけど、僕は、それは正しくないと思っていて、街づくりをやってくプロセスの中で、友情が芽生えたり、自分自身が鍛えられて器が大きくなったりがあるわけであって、これは副産物であって、目的はあくまで「奉仕」＝「街づくり」をする団体なんです。

田中： 困難に立ち向かってる時に、その、人となりが見えるってありますもんね。

神谷： そうそう、本当にそう思う。 だから先ほどから言っている神野君って、彼となんかは本当にそう。 JCに入るまでは、彼のこと何も知らなかったんだけど、同じ23歳でJCに入会して17年間活動してる中で、初めて 「ほんとに一生付き合っていける友人だな」 ってことがわかってきたんです。

それは単に遊び友達だったからじゃないわけで。 今、彼がいなきゃ、ぼくは議員活動もできないだろうし、そうした本物の関係になってきたと思っています。

田中： 凄く支え合ってる感じがしますね。

神谷： あっ、そうだと思いますよ！

田中： その神野さんにとっても、神谷さんの存在というものが凄く大きなものを占めてらっしゃるような。

神谷： うん、そう思ってくれてるとありがたいね（笑）。

田中： そこで、こう、何を。 何で惹かれたっていうか、感じたっていうか？

神谷： そう、JCをお互い一生懸命やってる姿だろうと思います。 JCって金銭面では一文の得にもならないんです。

田中： ボランティアなんですね。

神谷： いや、逆にお金出してやってる。 そう、だからJCを判りやすく言うと、頭を下げてどぶ掃除をさせてもらう団体かな。

田中： あー、書いてありましたね。

神谷： うん。 あ、そんなところまで読んでくれたのですか。

田中： あ、ざっとですけど。

神谷： だってあれはJC時代の僕の理事長としての所信表明ですよ。 あー、それ読んでくれたんですね。あれは37歳の時に書いた文章なんです。 お金を払って、頭を下げてどぶの掃除をさせてもらうのが、JCだと思っています。 そんなところに17年間もずっといて、それも自分から 「入れてくれっ」 て来る人ってそう滅多にいないわけですよ。

田中： そういうものなんですか？

神谷： 30歳頃に、「ぼちぼち歳だで、どう？」 って周りから誘われて、「まあ、しょうがないなあ。つきあいで行くか」 って感じで無理やり入会したりとか。

田中： あはは。 そういうもんなんですか。

神谷： そうだよ。 だから活動しても、せいぜい7年とか8年。 短いメンバーになると1、2年というメンバーもいたりして、それではJCの良さが判らないと思っているんです。 僕なんか23歳で、自分から 「すみません、入りたいんですけども」 って訪ねて行ったんですよ。 どうしてかと言うと……。

田中： うん。

神谷： これ、経歴見てもらえばわかるんですけど、大学を中退して、すぐに魚屋やってた親の跡を継ぐ形で社会に出た僕にとって、JCっていうのは 「JC大学・社会学部」 だったんです。

田中： 学びの場だったんですね。

神谷： そう！ そう！ もっと言えば、実践的な 「JC大学・社会学部」 というか。「大学生になれば、少しは大人びた雰囲気になるかなあ」 って言うのが高校生時代の憧れで。

田中： 笑

神谷： ところが、いざなってみたら少しも大人になっていないわけですよ、自分が。 そうして仕事に就いた時に、JCの封筒持って、車にポンって積んで、仕事もやりながら、JCもやっているっていう先輩方の姿を見た時、「はあー。大人だなー」 って思っ

田中： あははは。

神谷： すっごいJCに憧れたんです。

田中： そこに、大人の姿を見たわけね（笑）。

神谷： 見た！ すっごい憧れたの。「自分も、ああんりたい」と。 単に仕事だけやるんじゃなくて、仕事もやるけども、地域のそういった街づくりだったりとか、奉仕活動にも積極的に

参加することをしたいと思ったんです。

田中： うん。

神谷： JCで何を学ぶかっていうと、役割演技、みたいなものなんです。うちの会社で例えると社長の役割は、決して現場で魚を切る事じゃないわけで。

田中： うん。

神谷： たぶん、JCに入ってなかったら、ぼくは現場でずっと魚を切っていたかもしれない。組織を学ぶっていうのかな。そういうこともしたかった。それが大人だなんて感じたので憧れていたんです。

田中： 視点が違いますもんね。社長という生業と現場での。

神谷： そう、全然違う！違う。現場の人間と中間的にいる人間と社長と、全員それぞれ違うでしょ？ JCで、良いところは何かっていうと、役割演技法なんだと思いますね。オリエンテーションで言うんだけど、「その時、その場、その名の通りの人になりましょう」 てね。

田中： うん。

神谷： どういうことかと言うと、今年理事やった人が、来年は一般メンバーになることもあるわけ。あるいは運営幹事、あるいは監事もあるし、理事長の場合もあるわけ。従業員15人の私がJCでの役職では上で、従業員何百人の社長が下ってこともあるわけ。その役割を学ぶところがJCじゃないかねと。

理事長になった時は、理事長を学ぶ。トップを学ぶ。社会に出てミスしたら、それはある意味致命的ですよ。でも、JCはそのミスが許されるわけなんですよ。

もうひとつ、よく言っていたのが、適材不適所だと思ってる。つまり企業は収益をあげなきゃいかんから、効率よく適材の人を適所につけようとするけども、JCはむしろ勉強だと思えば、「こいつ、全然、会員交流なんて似合わないけど、会員交流の委員長で、やらせてみる」とか。彼にしてみれば、知らない世界。そういうのが全然OK。それがある、失敗が許される世界の魅力、ですよ。

田中： 確かに、役割、立場が人を作るってありますもんね。

神谷： その通り！ その通り。 その言葉。 どうして後輩が、 13年経ってもまだオリエンテーションの講師をやってくれて言うのかっていうとね。 その後輩に 「僕のどの言葉で入会する気になったの？」 って聞いたことがあるんですよ。

すると 「神谷さんが言った言葉でね、 こんな言葉があった。 力があるから重荷が背負えるんじゃないくて、 重荷を背負うから力が出るんだ」 って。 それを聞いて入会しようという気持ちになったってね。

自分は重荷だと思ってたけれど、 その役割をやってみて 「えい、 なんとか頑張ってみよう」 ってやったら、 一年位経ってみたらね、 なんとなくその重荷が担げるようになっていた。 儲けもんですよ。 一回り大きくなったわけだからね。 そんなことをオリエンテーションで言っていて、 それを聞いて、 彼は入ろうと思ったと。 それこそが、 今言われた『立場が人を作る』 ってことですよ。

田中： この間、 BSでオリンピックの為末選手がいろんな人にお話しを伺う番組を観てたんですけど、 どこかのお寺の老師さまのお話で。 「生きてく上で大変なことが日常にあって、 本当に投げ出したい。 そういった時に、 どういったものを心にとめておけばいいのか？」 って聞いた時に、 その老師さまが 「とりあえず、 一日をがんばる。 で、 次の日になったら、 またその一日をがんばる。 それをくりかえしていくうちに、 日が過ぎて行って、 大変だと思っていたものが、 いつの間にか乗り越えられるものになっていった」 っていうようなお話をされていて。 それを思い出しました。

神谷： まったく、 そうですよね！ 先ほど、 子育ての話もしていたけれど、 子育てなんて、 まさにそうだと思っていて、『育児は育自なり』 って言葉があってね。 子どもを育てているようで、 実は自分自身を育てることなんだと。 最初から自分は父親の器を持ってお父さんになったわけじゃないけれども、 子どもが病気になったりとか、 悩み事にぶち当たったりする中で、 はじめて父性愛が芽生えてみたりとか。

田中： そうですね。 アメリカのなんですが 「親業」 っていうのがあって。 その考え方が、 「教師だって、 教師になるために学校行って学ぶのに、 親になるための教育はうけていない。 親になるためには教育が必要だ」と。

神谷： なるほど。

田中： やっぱり知らない、 自分が育てられたようにしか、 育てられない。 だから虐待とかもなくならないんだって。 そういう連鎖があった時に断ち切るものも、 教育なんだなって思いましたね。

神谷： うん。 親業は、いつまでも続くな。 親だから、ずっと。

田中： そうですね。

神谷： 大きくなって、手が離れたと思っても、いろいろあって。 親として、いつまででも学ばせてもらうなって思ってますよ。 試練いたくな、いつまでもって。

田中： そうですね。 いろいろあると思います。

神谷： まあ、ということで、JCに入って。

田中： 笑

..... つづく ^^

◆市議会議員になったきっかけは、直線的に人の役に立つ仕事をしたかったから

神谷：ほんと、いい出会いでしたよJCは。JCメンバーの中で、仲人さんをやってもらった人もいたし、「あにき、あにき」って慕った人もいる、とにかく勉強になりました。だから、たぶんJCやってなかったら、今頃議員もやってないと思いますよ。絶対に。

田中：確か、39歳で立候補されて。ということは、JCに在籍されてる段階で。

神谷：そうそうそう。

田中：きっかけって、なんなんですか？

神谷：まあ、それよく聞かれるんですけど……。

田中：うん。

神谷：37歳で理事長をやらせてもらったんですよ。

田中：ええ。

神谷：JCは先ほど言ったみたいに、自分の中では街づくりしていく、社会貢献をする団体だと思っていて、市の方にいろんな絵を描いて提言とかしたわけですよ。

田中：うん。

神谷：だけど、なかなか聞き入れてもらえない。所詮外部からの、意見でしかなくて、「もうこんなだったら、中に入っちゃった方がいいかな」って思ってる。

田中：そういうことかあ。

神谷：「その方がよほど実現しやすいぞ」と思ったことがひとつ。それとまあ、障害者の支援をしているNPOなんですけど、そこの入社式で。

田中：「くるくる」さん？

神谷：あー、そう。くるくるさんの入社式で、必ず、僕15分間くらいしゃべらせてもらっているんですけど。

田中： そうなんですかー。

神谷： 15分だから、通常の挨拶だけじゃなくて、入社に対しての心構えみたいなことを話すわけですよ。そこで必ずいう言葉にね、「あなたの仕事はなんですかと聞かれて、例えば、障害者福祉支援のこういうところに勤めていますだとか、障害者のお世話をする仕事ですとかは、仕事の種類ですよ。あなたの仕事はなんですかと聞かれて、人のお役に立つことです。と答えられるような、そんな仕事のレベルになったら、ほんとに満足感を得られると思うよ」って。そんな話をするんだけど、自分自身ずっとそのように思ってたの。

人の役に立つ仕事をして死んでいきたいよなって、思ってたんです。もちろん魚屋だってできるよね。美味しい魚を食べてもらうことを通じて、役には立っているんだけど、議員って、もっと直線的じゃない！ 凄く目に見えるんですよ。で、自分がやったことが、ほんとに実現してみたりとか、隣のおじいちゃん、おばあちゃんがほんとに喜んでくれたりとかを見るのが出来て、すごく満足感が得られる。そういったことがしたかったっていうのが、ふたつ目かな。

田中： へえ。

神谷： 実際、あるんですよ。十五年も市議をやっていると、「神谷さん、いい加減次のステップに行ってよ」って言われるんですよ。県議だったりとか、市長だったりとか。

田中： うん。

神谷： だけど、すごく不遜な言い方するけど、市議と県議、やりたい方を選んで言われたとすら、僕は「市議の方を選ばせてもらうわ」って。県議を選びたいと思わない。

田中： どうしてですか？

神谷： だってさ、県議はさ、やっていることが判り辛いでしょ。県議がやったことで、形になったっていうのは、大き過ぎちゃうんですよ。町のおばあちゃんが、喜んでくれる姿が見えないんですよ、県議って。

田中： 遠くなるんですね。

神谷： そう、遠くなっちゃう。僕は市議の方がやりがいがある。国政も国を動かす、大きな仕事だけでも。そもそもそんな器ではないということも当然あると思うんですけど。

例えば市会議員の場合、四年間市会議員の仕事さえ、きちっと真面目にやっていたら次の選挙は絶対通る。きちりやっていたら、みんなわかってくれる。ところが国政は違うんですよ。

国会議員としていくら頑張っていたとしても、逆風が吹けば終わりだし、選挙対策という別の仕事があるみたいなものなんですよ。

田中： へえ。

神谷： 国会議員であり、次の選挙の候補者という別の仕事があるんですよ。

田中： じゃあ、議員活動に専念出来ないですね。

神谷： そう！ 全くその通り。だからイコールにならない。さっき言ったみたいに、市会議員って、市会議員の仕事さえしっかりやっていたら、次の選挙対策になるわけ。国政は一生懸命真面目にやっても、党にとっての逆風が吹けば終わる。選挙対策は「田の草取り」って言うんですけど……。

田中： 田の草取り？

神谷： これ、業界用語なのかもしれないけれど、要するに、自分が国会にずっといて、東京ばかりにいと、田舎の方の自分の田んぼには他の陣営が来てね、田を荒らしていくという。

田中： そういうことかあ。

神谷： だから、自分の票田を荒らされんように、田の草取りをきちっとせんといかん。これも国会議員の仕事なんですよ。

田中： 単身赴任じゃないですけど、離れてるところの田んぼの草を取りに行かないといけないということですよ。

神谷： その通り。その通り。その仕事が大変。むしろね。真っ当に真面目に議員活動やったら、それが評価してもらえると市会議員が嬉しいなって思っているんですよ。

田中： 確かに、目に見えるのって励みになりますもんね。

神谷： そうだよ。ほんとに、ほんとに。僕は次の二年後もぜひ立候補させてもらって、最後の総仕上げをしたいと思っていることがあるんですよ。

田中： 何ですか？

神谷： 全然自分の中で意図してなかったんですけど、平成11年に当選してすぐに、子供さんが障害を持ったある親御さんから電話があって、「神谷さんが選挙の時に、養護学校を刈谷市に作ってくださるとの話を聞きました」と言われたんですよ。その時、「ごめんなさい。

私、そんな公約ひとつも書いてないし、言ったこともない。全く不勉強で、養護学校の何たるかすら知りません。でも、これからは勉強させてもらいます」と答えたんですよ。

で、勉強してみて、「なるほど。ほんとに困ってみえるなあ〜」と思って、とにかく養護学校を刈谷に誘致するようなことを、ずーっとしてきたの。一番最初よく判らなくて安城の養護学校に見学させてもらいに行ったんですよ。「養護学校ってなんですか？」って。そんなレベルだったの。

見学に行った時に当時の校長先生が、「養護学校がマンモス化したり、あるいは刈谷にないから、子どもたちが遠くまで行かないといけないので困ってる。神谷さんみたいな議員さんが、刈谷に建設をって運動してくれるのはすごくありがたいことです。でも、そうやって言い出して、十年経って出来れば良い方です」と言うわけ。僕の気持ちとしては、当時何も判ってなくて、二三年でなんとかしようって動いていたわけですよ。

ところが既に十四年経つけれど、残念ながらまだどこにも出来ていない。で、やっと、やっとですよ。定住自立圏という構想があって、これは刈谷が中心市になって、東浦と知立と高浜が周辺市として、ここでひとつの圏域でいろんな事業を共同してやっていこうという構想なんです。

その中に文言として初めて入れ込むことが出来たんですよ。この圏域に、「特別支援学校を誘致する」とね。「建築する」と書いてあったかな。これが入ると、とりあえず動いてくれるから。ほんとに動いてくれていて、今。それでも、どうかなあ、早くて五年位かかるかなって動きなんですよ。

田中： その壁は、なんなんでしょう？

神谷： やっぱ、お金だよな。お金かかるもん、学校は。刈谷市立で学校を作ったとしても、そこで働く先生は、みんな県の教育委員会から給料が出ているわけ。

田中： はい。

神谷： つまり、刈谷市立の養護学校を作ったとしても、そこの先生の給料まで負担したら大変なことになるから、その部分はやはり県にお願いするしかない。でも県は愛知県全体のバランスの中で見ているから、「とりあえず、遠いけど半田の柵までバスで通ってよ」ってことになっちゃうわけですよ。

しかし、「市が建物を用意するから、県で職員を出してください」という方式が瀬戸で何年から前から行われて、いい事例が出来たものだから、この組立ならやれそうだって僕は思っているんですよ。今までは県ですべて建物までという要望だったので難しかったんですけど、この組立なら少し前に進んだんではないかなと思っているんです。

だから、それが完成するのを見て、まさに喜ぶ姿を見て議員としての集大成をしたいと思っているんですよ。最もこのペースでは、僕の初当選当時困っていた人は大きくなってしまっているけれどね。

田中： でもその努力してくださってるという姿は伝わってると思います。

神谷： そうかな。

田中： 私の周りでも障害を持ったお子さんのお母さんがいらっしゃいますけど、社会の壁というか、先に進まない状態っていうのは、すごく感じてらして。そういった計画っていうものが、遅々として進まないっていうのは実感としてね、わかっていらっしゃると思うんです。それが文言に入って、動いているのが見えるっていうのは、凄く嬉しいことなんじゃないかなって思います。

神谷： あー、当選した時から言い続けてきたことが、やっと実現に。今から五年後くらいかな。

田中： 五年後。

神谷： それ位かかると思いますよ。

◆ 政治家に求められるものは国立大学の受験と似ている

田中：　ところで、神谷さん、いわゆる政治家っていうものになったわけじゃないですか。

神谷：　うん。　まあ、市議員クラスは、あんまり政治家とは言わないんですけどね。　政治家って言ったら恥ずかしいくらい。　市議員では政治家とは、あんまり言わないと思いますよ。

田中：　そんな（笑）。　どうでした？　議員さんになられて、実際に活動されて感じたことなど。

神谷：　うーん。　反省する部分は凄くあって。　やっぱり基本的には、『数は力の世界』　なんだと感じる時がありますよ。　いくらひとりで頑張って、正論言っていたとしてもダメな時があるんです。　おもしろいなと思ったのが、他市のある市議員さんが何カ月か前に、僕のことをブログで書いてくれてて。

田中：　うん。

神谷：　もちろん、それは僕のことって判らないようになんだけれど、彼こういう書き方をしています。　「昔からよく知っている隣のA議員さんについて、他の議員さんに『A君、どう？』　って聞いたら、『彼は正論ばかり言うから、嫌われているんだわ』　って言われた」と。　「ええっ？　正論言うの、あたりまえでしょ？　それが認められない議員の世界ってなんなの？」　みたいに、彼書いてあったんですよ（笑）。

田中：　ええ。

神谷：　それを書いていることすら、全く知らなかったんですけど、つい最近、彼がFacebookで「神谷さん、〇月の私のブログをみてください」　って。　読んで、「あー、これ僕のこと言ってたな」　ってすぐわかったわけですよ（笑）。

田中：　うん。

神谷：　全くその通りで。

田中：　数がないと、通らないんですか？

神谷：　そう。　そこでやっぱりね、正論ばかり言って嫌われていたのでは何も出来ない。

その昔、県会議員の岡本辰巳先生が、まだ僕が議員になる前に、「神谷君な、馬鹿になれよ、馬鹿になれよ」といつもアドバイスしてくれていた。「馬鹿になるのは、大事だぞ」と。

それはどういう意味でおっしゃったかという、まさにこのことなんだと思いますね。正論ばかり言わずに、相手のこと受け入れたりだとか、「違っとるなあ」と思っても少し目をつぶることだったりとか、そういう許容範囲というか、肚の広さがないと、なかなか政治の世界は難しいんじゃないかと思っています。

だから僕はね、28人の市議員の中で議員としての活動は上位何人かの中に入っているという自負はあるんだけど、先ほど言った政治家として優秀かっていうと、ダメだね、やっぱり。

田中： 違うんですね。

神谷： 違う。

田中： 活動と政治家の評価は違う。

神谷： 違う。ほんとに、そう。数で行っちゃうことってあるからね。だから、そこは馬鹿になりきれなかった自分への反省点だね、そこが。器が小さいんですよ。さっきの岡本先生の言葉の意味合いはね、「意固地になっとらんで、馬鹿になっとりゃ、人が助けてくれる。こいつ、ちょっと危ういで助けてやろうか」と。

田中： 「見てはおれん」って、手を差し伸べてくれるような。

神谷： そうそう。それと、「馬鹿は角がないから、敵を作らないからいい」とも言われたんですよ。味方の多さじゃなくて、敵の少なさが大事なんですよ、多分この世界は。

だから、ほんとの能力がある人は、政策能力もあって行動力もあってね、議員としても立派な上に、それがわかりながら、そうじゃないメンバーとも上手に付き合ってる。まあ、人望も厚くてというふうなスタイルじゃないと、本物じゃないなと思っています。

田中： じゃあ、政治家に求められる資質ってなんなんですか？

神谷： いっぱいある！ほんとに。いや、そこはね国立の大学受験と一緒にだと思っていますよ。

田中： うん？

神谷： 政治家になるのにはね。 要するに、いろんな科目があるんですわ。 僕は例えば、演説する能力なんていうのは、みなさんに言わせると偏差値高いらしい。 政策立案能力は、まあまああるだろうとかね。 まあ、先見性はあんまりないかもしれないなあ、とかね。

田中： 笑

神谷： そう見て行く中で、例えば、遊び心があるっていうことも、もしかしたら必要なところかもしれませんね。

田中： 遊び心？

神谷： うん。 カチカチでは、さっき言ったみたいに人はついてこないんだわ。 そこらの偏差値が低いんだわ、どう見たって。 あるいは、人から何か悪口を言われても、「何を言ってるんだ！」 と思えるくらいの図太さ、それも科目にあるんだけれど、その偏差値も低いんですよ、僕は。

田中： あははは。

神谷： 人から何か言われると直ぐに気になってしまう。 図太さがない。 総合力で観ると、この辺の配点が高いと、僕は思ってるわけ。 政治家という大学は、この配点が高いんですよ、きっと。

田中： 総合力かあ。

神谷： バランス感覚が大切ですよ、ほんとに。

田中： そうかあ、総合力か。 なんか、ひとつ突出した能力があれば、それに引っ張られて、ガツと行けちゃうもんなのかなって思っていました。

神谷： 普通はそう思うよな。 僕もそう思った部分もあるな、議員になりたての頃は。

田中： 笑

神谷： ところがさ、ほんとにさ、みんなと和する能力って、凄く大事。 本人は納得していても、それこそ馬鹿になってという世界なんだけど。 ほんと理不尽に思えることって、僕は拒絶しちゃうのよ。 そんなことを笑いながら、ハイハイってやって、「あ、かわいいやつ

だな」って思われてる方が、自分が思ってることを達成できるでしょ。そんな力もいるんだわ、政治の世界って。

田中： 凄いですね。

神谷： でも逆に、小泉さんはどうだったかっていうと、小泉さんは、この感覚あんまり無かったように思うんですよね。

田中： うん。 そうですね。

神谷： なかった。 でも、この能力が低くてやれるほど、他の能力が凄かったのだと思うな、僕は。

田中： 突出しすぎちゃってた。

神谷： 凄かったと思う。 その他の能力が。 それが魅力だったんだと思いますよ。 だけど、そんな人は稀だと思う。 あの人は凄いと思うよ、今でも。 普通はそうじゃない。 小泉さん、きっと他の議員仲間には余り好かれていなかったんじゃないかな。

田中： そうかも。

神谷： 当時ね、昔の自民党的考え方だったら、絶対に総理にはなれてないでしょう。 ではなぜ小泉さんが総理になれたか。 考え方が徹底した国民目線だったからじゃないかなあと思っているんです。 そしてその姿勢は僕にとっては憧れですよ。

田中： そうなんですね。

神谷： なんにも気をつかわずに、ほんとに自分の心に素直に、市民目線だけでやってみたいと思う事があるんですよ。

田中： しがらみなしに。

神谷： しがらみなしに！ でも、いろいろ恩義もあったりして、そこは抜けられないだろうと。 でも、最後の最後には、自分らしく。

田中： ええ。

神谷： 意見書の提出や、議会活動も政党に関わらず、良いものは良いとして行きたいし。

田中： いいものは、いいですね。 そういうのが通らないのって、なんか、日本人のよくない部分が凝縮されてる感じですね。

神谷： 全くその通り。 全く。 そういったものを振り切って、いいものはいいって、やっていきたい。

田中： 自分が、「こっちが正しいから、こっちの道を選ぶんだ」 って言った瞬間に、今まで親友だと思っていた人間がそっぽ向いたり。 そんな突き付けられることって、あるのかなあって。

．．．．． つづく ^^

◆ 吹っ切れている状態の人間は一番美しい

神谷： うん。 そうだよな。 生き方……そういうもんですよね。 でも、田中さん、そうしたいって思う時、あるでしょ？ しがらみもなくしてね。 自分の心のままに。

田中： はい。 今は、もう、そんな感じですね。

神谷： 田中さんは既にそんな感じですよ！ いや、僕はそう思った。 この仕事していること自体、既に吹っ切っているなって。 だってどう見たって、以前のような奥さま、お母さんの香りじゃなくなってるもんね。

田中： ぷ。 なんて言うんですかね、人生は一度なので（笑）。

神谷： どっかで、吹っ切っちゃったよね。

田中： はい。 大きかったですね。 結婚すれば、誰かの奥さん、子どもが産まれれば、誰かのお母さん。 だけど、それだけではないんですよ。 子どもを育てていく過程で、突き付けられる、自分を振りかえったり。 姑ともいろいろありましたし。 その中で見えてくるものがある。 「誰かのせいにして生きてくのって、やだな」 って。

神谷： うん。

田中： 「もういいよ、別に」 ……みたいな（笑）。

神谷： いや！ 絶対そう思った、僕は。 田中さんは。 こういう仕事してるって、そうだろうって（笑）。 そちらの道に行かれたっていうのは。

田中： 私、あんまりお友だちはいませんけども。

神谷： ぼくと一緒じゃないですか。

田中： じゃあ、お友だちですね（笑）。

神谷： うん。

田中： さっきの神谷さんのJCのお話しじゃないですけど、そこの中でまだ繋がってる友だちが、ほんとの友だちなんですよ。

神谷： そうだね。その通りだね。

田中： 学生の時からの友人とかいないし、ママ友で続いている人もいないし。でも、コーチングとかNLPとか勉強してく時に、自分の中にある役割だとか、「～しなきゃいけない」っていうものにぶちあたって。その時、一緒にそれを見てくれた、一緒に勉強した仲間っていうのは、繋がってるんですよね。

神谷： うん。

田中： だからさっきのJCのお話の中で、大変な時を一緒に過ごした人との、そこでその人となりが見えて繋がったというのは、同じかもしれないなって。

神谷： そうだね。

田中： 損得ではないし。友人、ほとんど東京なんで、距離は遠いんだけど、気持ちの距離は近い。

神谷： わかる、わかる。

田中： やっぱり、方向を変える時って大変だったりするんですけど、わかってくれる人は、わかってくれてる。

神谷： うん。

田中： 神谷さんが今まで大事に、真摯に向き合って活動されて来たことを見ていらっしゃる方は、後援会の方々も含めて、わかって下さるんじゃないかなって思いますね。

神谷： そうねえ。

田中： で、実は、吹っ切った時、その方が、凄く力を発揮できるんじゃないかなって感じがしました。

神谷： そういう意味では、そのパターンは、試みでもあるんだわ。

田中： うん。

神谷： そうした時の方が、実はすっごい力になったりするはずなんだと思いますよ。

田中： そうそう。 今だと、ひょっとしたら、アクセル踏みながらブレーキ踏んでるような。

神谷： そうそうそう。 吹っ切っていないんだわ、自分の中で。

田中： 何があれば、吹っ切れる感じですか？

神谷： いや、だから、ほんとに、ほんとに、有権者の方に申し訳ないけど、もう次は選挙がないって時に吹っ切れるのかもしれないと思うんですよね。 途中で方向転換するのは怖い。

田中： その怖さって、なんなんですかねえ。

神谷： それは、今までの、この政治姿勢に対して票を入れてくれた方に対する裏切りのようにも思えてしまうんですよ。

田中： その怖さは、選挙に通らないかもしれないという怖さというよりも、ひょっとしたら、有権者さんや後援会の方たちからそっぽを向かれることとかに対しての。

神谷： そりゃ、もちろんあるよ。 それ、イコールだと思ってるから。

田中： その方たちから、裏切られたって気持ちを持たれることが怖かったり。

神谷： それはある。 でも、それが選挙になると、裏切られたって思う人もいるけれど、実はその僕の姿を見て、「すごく勢いがあるって、正論を言ってくれて、真っ当で、この政治姿勢こそ自分が期待していた人だ。理想像だ」 って新しく応援してくれる人もあるんじゃないかと。

田中： なんかそっちの方が大きい気がします。

神谷： そう、だから本当はそれをやりたいんですよ。 僕の魂はね。

田中： さっきの数っていうことに繋がるんでしょうね、きっと。

神谷： いや、ただね、「数だ」 と思っているうちは、吹っ切れていなくて。 小泉さんがなんであんなに強かったかっていうと、国会内に仲間はいなかったけども、国民を味方につけちゃったでしょ。

小泉さんの能力が突出していたのは、その部分だったと思うんですよ。 議員を味方につけられなかったけれども、世の中を味方につける力。 そういう議員像って憧れですよ。

田中： 楽しみですね。 新しい形なんでしょうね。 なんか、脱皮って感じが。

神谷： そうそう。 脱皮できる人間って、そうはいませんよね。

田中： そうですね。 うん、楽しみですね、脱皮した神谷さん。

神谷： ふうむ。 そうかもしれないね。

田中： 最初、「数が」 っておっしゃってた時よりも、今の方がエネルギー上がってるので。 アクセル全開、期待してます。

神谷： うん、わかった。

田中： 絶対そっちの方が。 「～をしなければいけない」 ではなくて、「～したいんだもん」 って感じの時が。

神谷： そうですね。 以前JCの中でさ、自分らがオリジナルで作った一泊二日30時間の自己啓発セミナーみたいなのがあって、僕らはそれを 『アクト』 って呼んでいたんですけど、その理念として流れている考え方がふたつあってね。 ひとつは、『人生極めれば、愛』。 そしてもうひとつは 『吹っ切る』 っていうことだったんです。

田中： うん。

神谷： 人間どういう時が一番美しいかっていうと、ほんとに吹っ切っちゃにむにやってる姿とか、打ち込んでる姿って、美しいじゃないですか。 そこに打算があつたりとか、てらいがあつたりとか、恥ずかしいって気持ちがあつたりとか、ちょっとでも心にわだかまりがあると、美しくないんですよ。

そういう意味からいえば、今の自分は美しくないかもしれませんね。 しがらみなどあらゆるものを吹っ切って、自分の議員としての信条通りに行こうって活動したら、きっと美しいんじゃないかと思っているんです。

田中： 凜とした感じがしてね。

神谷： ね、そうしないといけないですね、本当は。 先ほど田中さんが言っていた言葉と通じるなあ と思っていて。JCでも教えられたのは、それなんです。 アクトの中で。 JCメンバーの前でアクトの講師をやるっていうのも、ドキドキの話なんですよね。 講師だからこそ、全て吹っ切っていないととてもやれない。

田中： そうですね。 すべてを出す感じになりますね。 さらに出さないと、伝わらないし。

神谷： その通り！ そこで本当に吹っ切るってことの大事さみたいなのを知ったかな。

田中： じゃあ、もう、全然出来るじゃないですか。

神谷： わだかまりとか、しがらみとか、かっこつけようという気持ちとか、恥ずかしいという気持ちとか、そういったものを全てなくし、ひたむきに物事に取り組んだ時に、光り輝くね。

田中： たしかにそうですね。 やっぱ、いろいろ着てたら、早く走れませんか。

神谷： うんうん、そう、その通り。 田中さん、二年後の選挙に応援に来てよ。

田中： あ、はい。

神谷： 本当に？ うぐいす嬢やってくださいよ、うぐいす嬢。

田中： はい？ あ、いいですよ。

神谷： 吹っ切れないとやれないよ。 恥ずかしいなんて思ってたら、やれないよ。

田中： だいじょうぶです。

神谷： お願いします。

田中： 私も今、コーチングやセミナーをしてて、やっぱり自分の中で、本当にそうだ ってるものしか、お話し出来ないし。 思ってることって伝わっちゃうんですよね。言葉以外で。

神谷： うんうん。

田中： だから、国会の答弁とかでも、嘘くさいとか、読み仮名間違えちゃうとかいうレベルで

はなくて、根底にあるものは醸し出されてしまうんだらうなって。 だから小泉さんがバーンっていった時っていうのも、一種迷いが無いというか。

神谷： そうだな。 その通りだね。

田中： それがわかりやすさだとか、引きつけることになったのかなあとか、思ったりしますね。

神谷： そうだな。 ぶれない。 わかりやすい。 迷いが無い。

田中： 時にはそういったものが、傍から見てて痛い時ってあったりするんですけど、勢いでみれば、それに勝るものはないですからね。

神谷： うん。

田中： でも、友人からも、「葛藤するものを持ちながらも進んで行くことは、凄く筋力がつくからね」と言われて、「まさに！」 みたいな。

神谷： まあ、田中さん、なんか吹っ切っているね、人生を！

田中： ええ、吹っ切ってるというよりも、いろいろぶつかるんですけど、「最終的に還るところはどこかな」というのは、結構ありますね。 変な話、「今死んでもいいかな」とか。

神谷： 初めて会った時から、変わってないね。 考え方とかじゃなくて外見が。 当時は髪が短かったよね。 よく覚えているでしょう？

田中： はい。 本当によく覚えてらっしゃるんで。 なんか私、しでかしちゃってたかなあって思っていました（笑）。

神谷： 爆笑

．．．．． つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

神谷さんにもインタビュー後おつきあいいただきました。
まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

<いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つづ

きは神谷さんのおこたえデス ^^

田中： もうちょっと、お聞きしてもいいですか？

神谷： どうぞ、はい。

田中： 小さい頃はどんな子どもでしたか。

神谷： まあ、オール3かな。 ガキ大将でもなく、優等生でもなきゃ、普通の。だから親も育てやすかったと思うよ。 たださ、今になって近所のおばちゃんたちが、「子どもの頃、ほんとに、いい顔しとった」 って言うわけですよ。

田中： いい顔？

神谷： 色白で。

田中： あー、ハンサムですよ。

神谷： 「こんな美少年、おるか」 って思っていたってね（笑）。 でも、この間ショック受けたのが、ある会合に出た時に、「神谷議員でしょう。あなたが一回目の選挙の時は、ほんとに光り輝いていましたよ」 って言ってくれるんですよ。 でもその言葉には続きがあって、「でも今はねえ〜」 って言うわけですよ。 いや、それは自分自身でも思っているんですけど、ほんと年取ったなって顔しているものね。

田中： そんなー（笑）。

今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか。

神谷： 一番かぁ。 うーん、むつかしいなぁ。

田中： 思い浮かばないですか？（笑）

神谷： いや、いっぱいあるかなぁ。

田中： たくさんありそうですね。 なんか特殊な世界に入られて、いっぱいあり過ぎたとか。 日常ではあんまり遭遇しないようなこととか（笑）。

神谷： うん。 いっぱいあり過ぎたんだと思う。 絶対に言えんようなことも。 実際に。

田中： 墓まで持って行かんといかん様なこととか。

神谷： そう。 それはあります。 ほんとに。

田中： それをどうやって乗り越えたんですか？

神谷： あー！ それは時が解決した。

田中： 確かに（笑）。 やり過ぎすしかないって、ありますね。

神谷： まあ。 抵抗しても、あかんってね。

田中： 人と会う時、つきあう時、その人のどんなところを見えていますか。

神谷： あんまり考えとらんなあ（笑）。

田中： そうなんですよ。 でも、考える意味、あると思いますよ。

神谷： そう？

田中： これ、私が聞きたくて書いてる質問なんですけど（笑）。 今まで十人位の人にインタビューさせていただいて、結構みなさん、悩まれるんですよ（笑）。

神谷： 笑

田中： でも、そういったところに個性が出るというか。

神谷： こういった質問に、ポンポン答えられる人って、いないでしょう？

田中： そうですね。

神谷： 恥ずかしいんだけど、「人と会う時、何を見てますか？」 って尋ねられて、「〇〇見てる」 とか、そんなノリで終わらせたいんですよ、僕（笑）。

田中： 笑

神谷： マジに、最近何でも茶化すことが多くなってきたかなあ。

田中： 中村さんも言った。 終わった後に、「どうでした？」 ってお聞きしたら、「なんか、自分のこと、知らなかったな。 ついつい、笑いにもってこうとしちゃう」 って。

神谷： そうそう。 その通り、その通り。 照れているんでしょうね、自分で。

田中： そうかも、ですね。

神谷： 自分を、こうしてさらけ出すの、嫌がっちゃってるのかな。 なんとなく。

田中： いいじゃないですか。 もうさらけ出しちゃってくださいよ（笑）。
全く何の制約もないとしたら、何をしますか。

神谷： 制約。 全くないとしたら、海外旅行に行きたいな。

田中： 海外旅行。 どちらに？

神谷： ひとつはヨーロッパ。 一回も行ったことないし。 もうひとつは、単純だけでもハワイとか。

田中： あー、のんびりできますよね。

神谷： マウイ島がとりわけ好きでね。 若い頃は、『マウイのまさ』 って、自分で名乗ってたんですよ（笑）。

..... つづく ^^

田中： 笑

落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか。

神谷： 基本的には時が解決するのを待つしかないんですけど、ただ自分の中でいつも自分に言っている言葉がふたつあります。

田中： うん。

神谷： ひとつはね、「相田みつを」さん。「誰にだってあるんだよ 人にはいえない苦しみ

誰にだってあるんだよ 人には言えない悲しみが ただ だまっているだけなんだ 言えば愚痴になるからな」これを自分に言い聞かせながら、「こういう苦しいことはみんなあるんだ。自分だけじゃない」 と思いながら、自分で消化しようとするかな。

もうひとつは、「気に入らぬ風もあろうか、柳かな」で（笑）。気に入らんこともあるけど、柳のように。

田中： 柳のようにしなやかに、やり過ぎそうって。

神谷： そうそう。 やり過ぎそうって思ってるだけで、特別何かをしてって感じじゃないな。そう酒を飲んで紛らわせるわけじゃないし。

田中： 健康的ですね。

神谷： そう。 そうやって、時が来るのを待つだけ。

田中： 何をしている時が一番楽しいですか

神谷： 田中さんと話してる時かな（笑）。

田中： ありがとうございます（笑）。

今のご自身に大きな影響を与えたと思える出来事を、ふたつ語って下さい。

神谷： ま、それはひとつに、父親の交通事故ですね。

田中： 家業を継がれるきっかけになったという。

神谷： そうそう。 だってあれがなければ、今の女房とも結婚していないし。

田中： そうなんですか？ ご結婚にまで関係してたんですか。

神谷： 大学を途中で辞めて帰ってきたから、出会いがあったわけだからね。

田中： 運命じゃないですか。

神谷： もうひとつは、議員になったことですね。 まあ、大きな分岐は、このふたつです。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか。

神谷： んー。 まあ、これはちょっと格好つけて言うと、応援してくれる支援者の皆さま方だと思えます。

田中： はい。

神谷： ほんとに、ほんとに選挙ではいろんな人にお世話になっています。 しかも、何日間もね。 さすがにその人たちは裏切れないっていう感じは常にありますよ。

田中： たしかに。

神谷： うん。 それが自分を突き動かす原動力ですね。

田中： うん。 応援してくださってる方の思いを持って、進まれるんだなと。

神谷： その通り！ だからね、無投票での当選っていうのは、したくないんですよ。 やはり無投票当選は、全然違うんですよ。

田中： 違いますね。 なんか、投票下さった方の思いってものがない感じでもんね。

神谷： ないものね。 単に議員活動がしたいだけじゃなくって、みんなの思いを背負って、議員活動がしたいし、もうひとつ付け加えて言うと、次の選挙っていうのは通知表なんですよ。

最初の選挙は、期待票。

田中： うん。

神谷： 二回目以降は、通知表。 つまり、自分の四年間がどうだったかという審判もしてもらいたいわけね。 それに、これからの四年間に期待することに対して、皆の思いを背負いたいわけですよ。 だから、選挙はあった方がいいと思っています。

田中： そうかあ。 ところで、
今死んでも悔いはないですか。

神谷： そう思う時と、そう思わない時があるかな、日々のなかでね。

田中： うん。

神谷： それは一日の中でじゃなくってね。 それがどうして思うのかは、よく判らないのですがね。

田中： 生きてるって感じしますね。

神谷： そっか（笑）。 煩惱が多いからね（笑）。 生にしがみつきたい時と、死んでもいいやって思う時があるからね、実際に。

..... つづく ^^

田中： 身体もお金も制限のない状態で、寿命が残り一か月だとしたら、何をしますか。

神谷： あー。それは一番究極ですねえ。うーん。ひとつにはさ、やりたいことを思いっきりやればいいって思って、海外に行ったりとかさ、そういうやりたいことだけをやって一か月を過ごすこともいいな、そうしたいなって思う反面、何も普段と変わらない生き方をして、人にも余命一か月であることを全く伝えずに、普段通りの一か月間を終わりたいって。そんな思いもあるね。

田中： おんなじくらいの割合で？

神谷： おんなじくらいの割合で。

田中： へえ。

神谷： 後者は、ちょっと格好つけてる生き方だと思うんだけども。前者にくらべると、それ以上にこっちの方が、素敵な生き方かもしれないと思うんですよね。普段通り、なんも変わらずに。

田中： 変わらずに、誰にも言わず、ひっそりと。

神谷： それで、死んだ後から、「もう一か月前に、余命一か月って知っていたらしいよ。でも誰にも言わずに。普通は思いっきり、なんかしたりするのに、それもせずに、普段通りで、死んでったね」って言われるの、格好いいじゃん。

田中： 格好いいっすね（笑）。

神谷： それもありかなあって思ってね。だから、もしそうなったら、どっち選ぼうかなあってね。

田中： その時次第かも、しんないですね。

神谷： ああ。

田中： 生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか。

神谷： あー、男がいいな、やっぱり。

田中： 男がいいですか？ それは、どうして？

神谷： なんかいろんな意味で、女性は大変そうですから。

田中： あははは。

神谷： 全然くだらない話ですけど、トイレひとつとっても大変そうだしね。 観光地とか、女性用トイレってずらって並んだりするじゃないですか。 「かわいそうだな」 って思っちゃう。 そんなくだらんところからだけどね（笑）。

田中： あ、でも日常ですからね、それが。

神谷： それとまあ、うちの娘達と息子見とって、女の子のいろんな感情とか、人との関係とか見ていると、煩わしそうだなあと。 男の方がなんとなくさっぱりしているな と思っていて、生きやすそうだなあ と思えるんですよ。

田中： それは、あるかも。

神谷： 化粧にしたって、男はしなくても表に出られるじゃないですか。

田中： そういう面倒なことがついてくるから、女はイヤなんですか？（笑）

神谷： 出産も痛そうですしね（笑）。

田中： えー。 神谷さん、面倒くさがり屋ですか？（笑）

神谷： かもしれないですね。

田中： 人間以外のものに生まれ変われるとしたら、何がいいですか。

神谷： やだな。 やだ。

田中： 人間以外は、やだってこと？

神谷： やだ。 二年前から、生まれて初めて犬を飼ったんですよ。

田中： うん。

神谷： 見とると、かわいそうに思える。 檻に入れられてさ、ものが言いたくてもしゃべれんしさ。 そういうの見て、かわいそうだなって。 ほんとにそう思ってて。 やっぱ、「人間が一番いいぞ」 って。

田中： そうですかねえ。

神谷： 何になりたい？

田中： 何になりたいはないですけど、うちもネコを飼ってるんですけど……。 あんまりかわいそうとは思わないんですよ。

神谷： そうなの？

田中： 人間って思考するから、かわいそうだなって思いがちなんだけど、実際の当事者というか、イヌやネコとかって自分をかわいそうなんて思っていないんじゃないかって。 それって人間の感覚なんだろうなって、そんなこと思ったりします。えと、
世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、何を消し去りますか。

神谷： あ！ 老化を消したい。 老い。

田中： じゃあ、『老い』 ですね。
今一番大切に思っている事（もの）って、何ですか。

神谷： んー。 さっき話した家族の事かなって思ってる。 一番。

田中： そうですね。 ほんと、そう思います。
今日のこの時間で、何か気付いたことはあったら教えてください。

神谷： あー、質問に対して答えが出ないってことは、常に問題意識を持ってないという事かなってことを、今思ってるかな。

田中： どうもありがとうございました！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< ace-support@samba.ocn.ne.jp >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト*ペディア 7 < 神谷昌宏 氏 >

<http://p.booklog.jp/book/78256>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/78256>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/78256>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ